

利用・用途・応用分野

肝細胞癌疾病の予測診断、肝癌に対する新規腫瘍マーカー

目的・課題

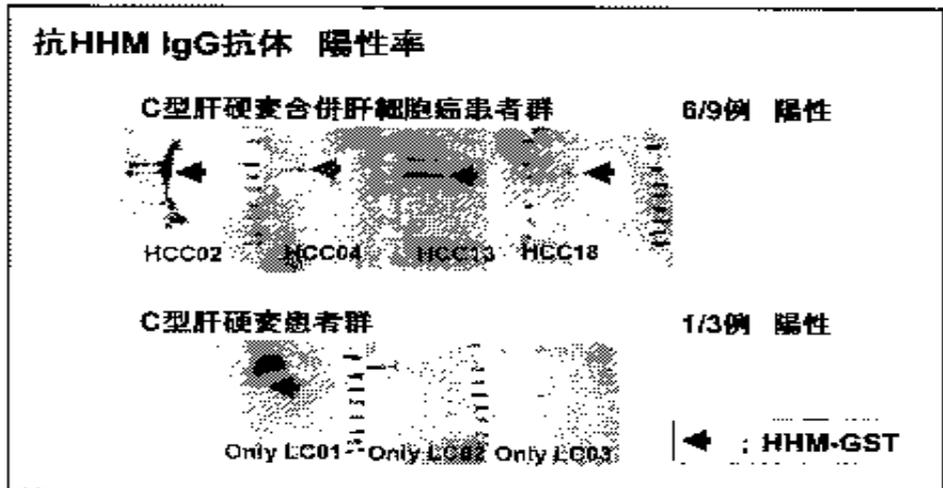
血清中のHMMタンパク質は、新規HLH型転写制御分子であり、肝臓特異的な遺伝子発現を調節していることが考えられているが肝癌のスクリーニングになるかは不明である。肝癌との関わりを明確にする。

解決ポイント

C型肝炎変合併肝細胞癌患者群とC型肝炎変患者群との間で、抗HMM IgG抗体の陽性率を検査した。血清中の抗HMM IgG抗体の陽性率は、C型肝炎変合併肝細胞癌患者群は9例中6例が陽性という高い値を示し、肝癌もマーカーになる。なお、C型肝炎変患者群では3例中1例という低い値であった。

研究概要・アピールポイント

血清中の抗HMM IgG抗体は濃度測定で肝癌のスクリーニング及び進行度のマーカーとして利用可能。



GST:今回用いた標識蛋白

C型肝炎変合併肝細胞癌患者群で(血清中)抗HMM IgG抗体が高率に存在する。

◆ お問合せ先 ◆

有限会社山口ティー・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail:tlojim@yamaguchi-u.ac.jp